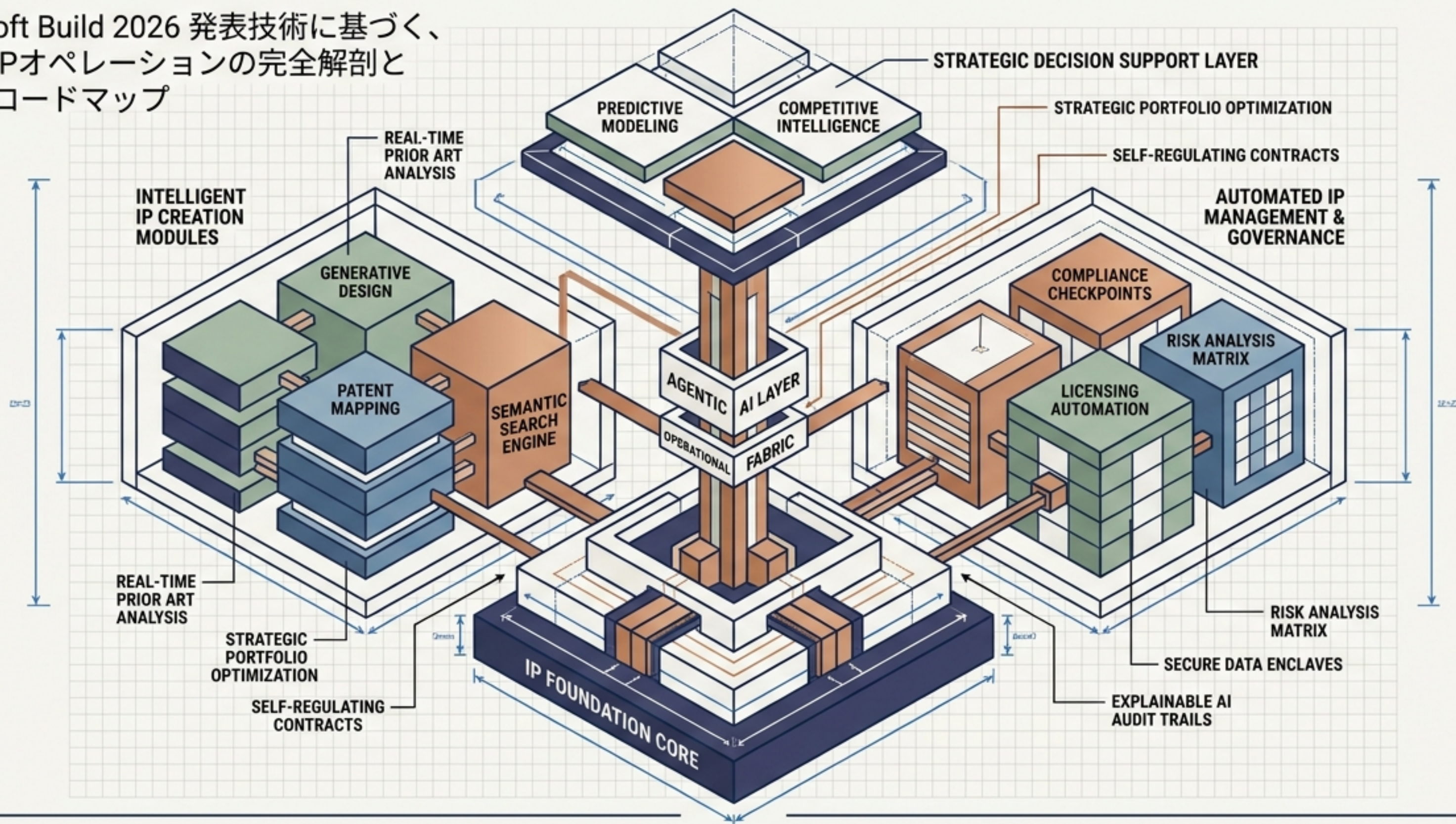
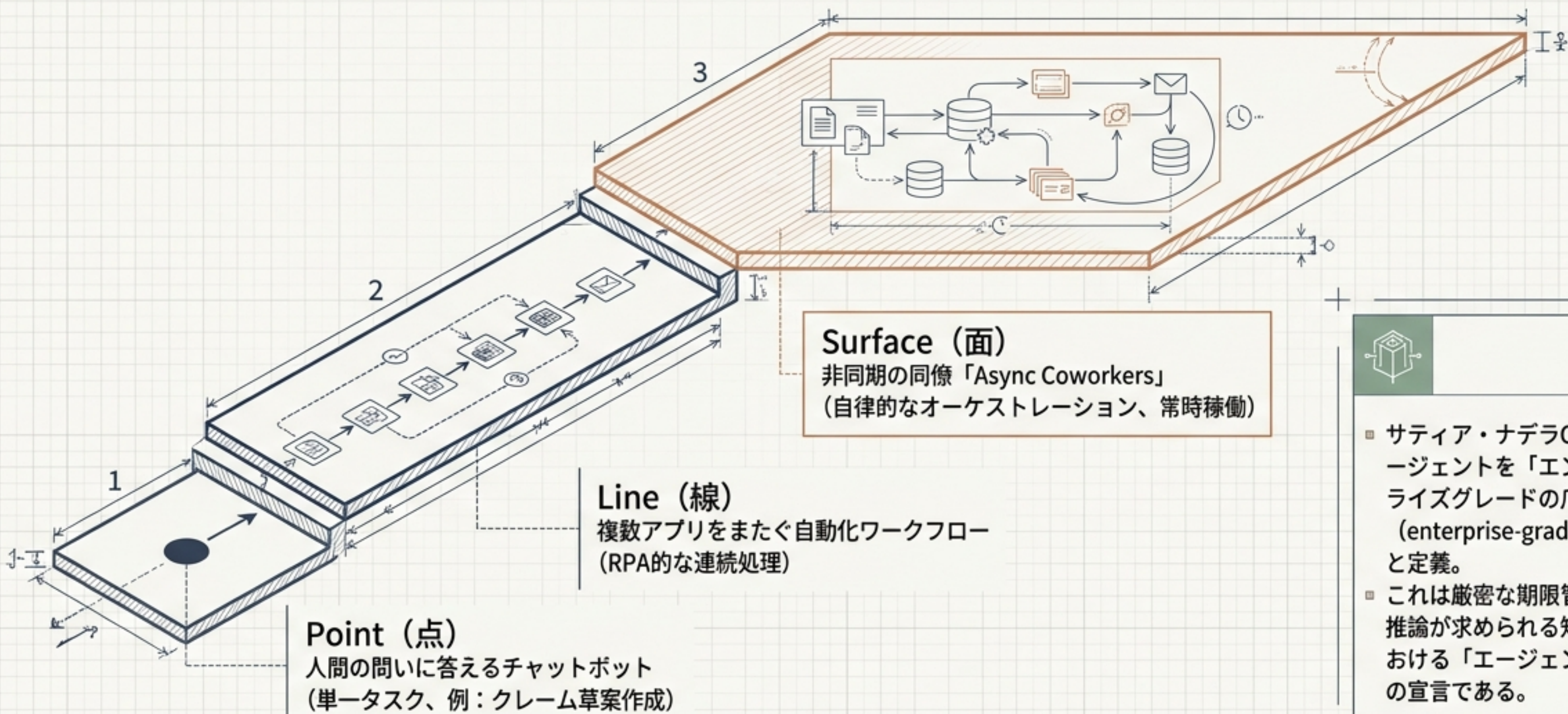


知財アーキテクチャの再定義：Build 2026が示すエージェントAI基盤

Microsoft Build 2026 発表技術に基づく、
次世代IPオペレーションの完全解剖と
戦略的ロードマップ



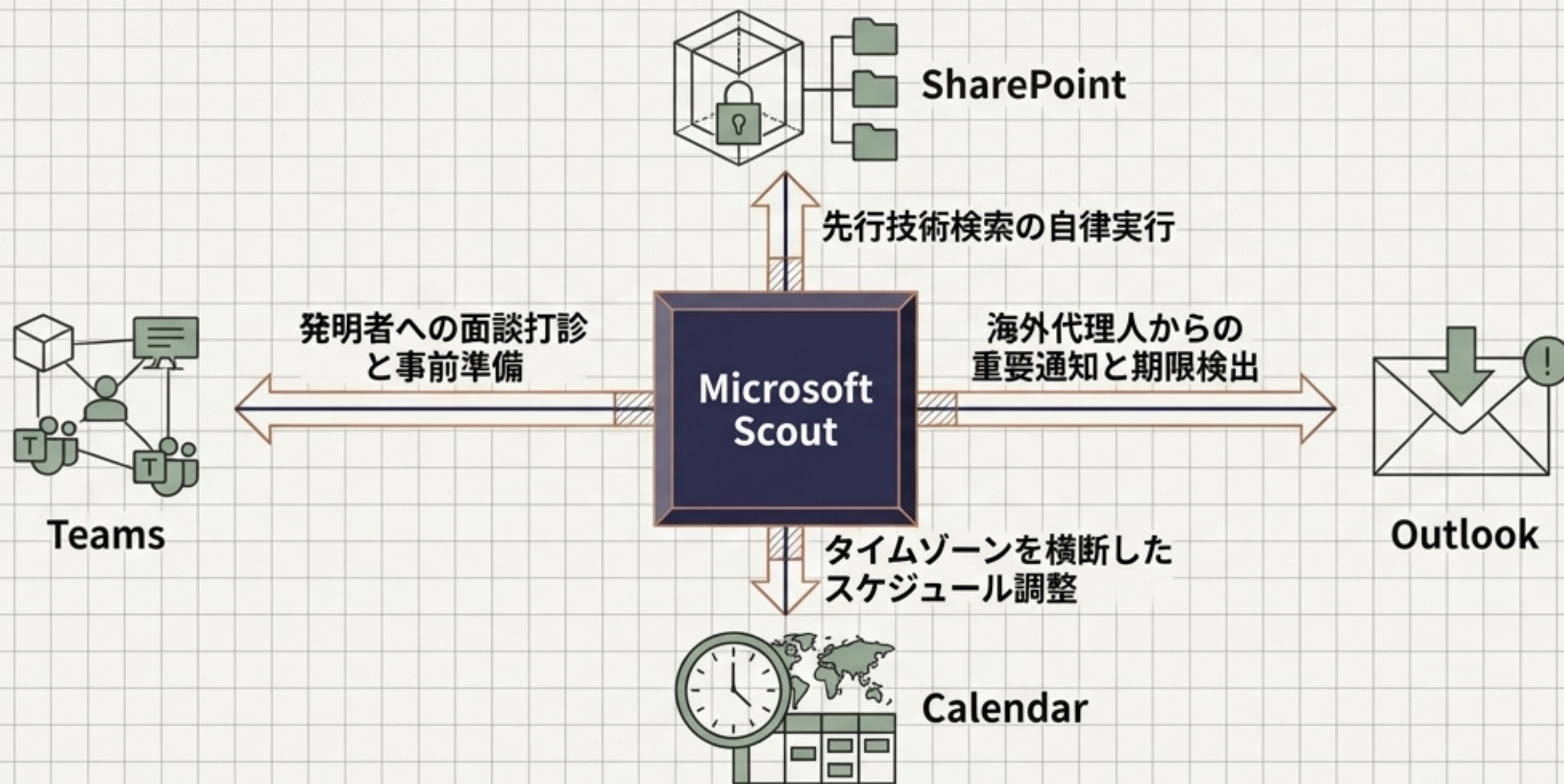
人間の問いに答えるAIから、長期タスクを自律完遂する「非同期の同僚」へ



■ サティア・ナデラCEOはAIエージェントを「エンタープライズグレードの爪 (enterprise-grade claws)」と定義。

■ これは厳密な期限管理と高度な推論が求められる知財業務における「エージェントAI元年」の宣言である。

自律実行レイヤー：常時稼働するデジタル知財パラリーガル「Scout」



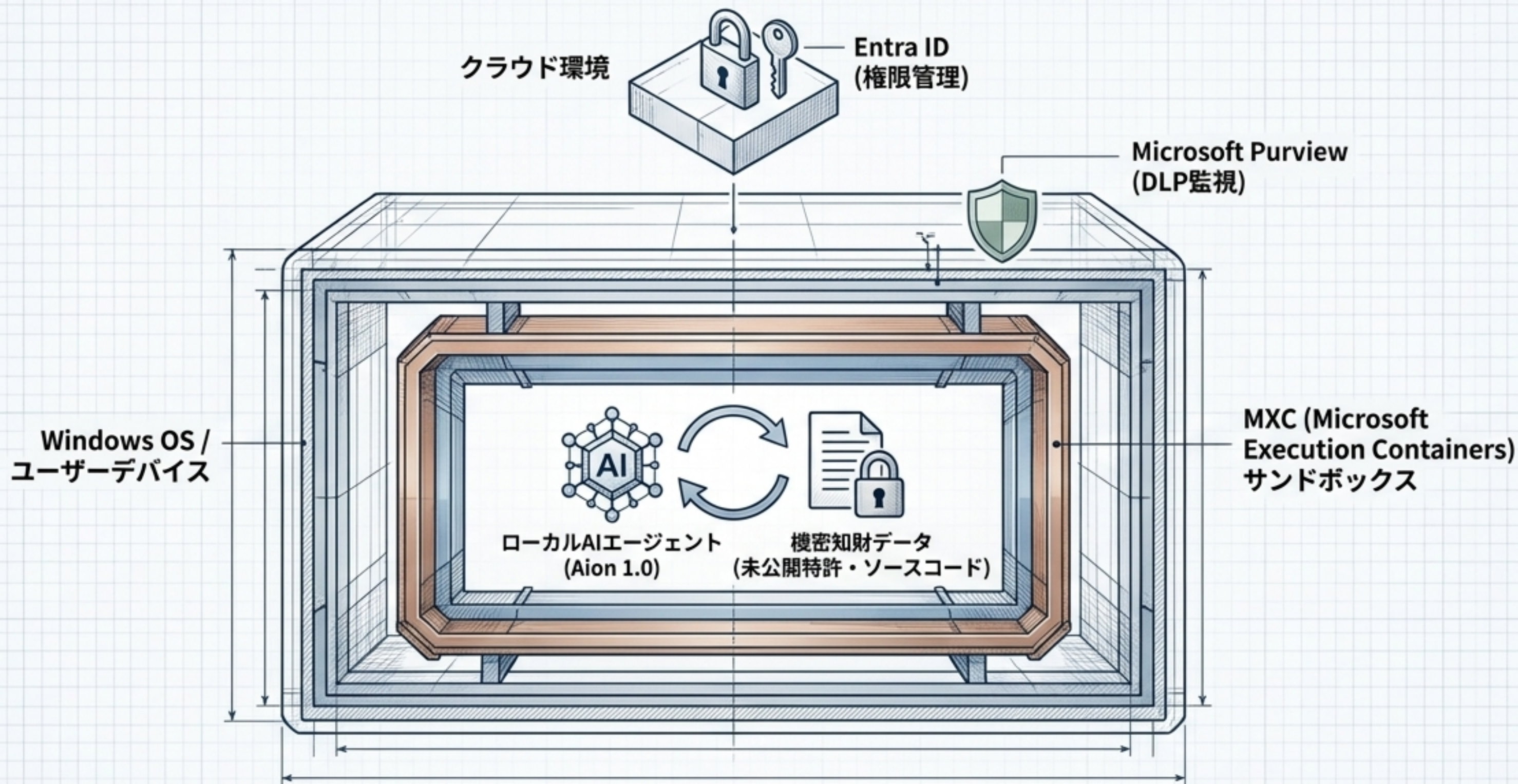
- 都度のプロンプト入力は不要。独自のアイデンティティを持ち、バックグラウンドで常時稼働。
- 海外代理人からの重要通知の期限検出や、停滞している意思決定の早期検知をプロアクティブに実行。

業務特性に応じたエージェントの最適配置とガバナンスの確立

	Autopilots (Scout)	カスタムエージェント (Copilot Studio)	R&D特化型 (Discovery)
稼働スタイル	常時稼働 / 非同期	都度実行 / 特定タスク特化	科学的ワークフローの反復・連続
知財ユースケース	期限管理、発明者面談調整	自社基準に基づく特許性評価	新素材探索、実験データ分析
ガバナンス環境	Entra ID付与、ヒューマン・イン・ザ・ループ承認	Microsoft Agent Platform ポリシー準拠	Azure エンタープライズ基盤

ガバナンスの要件：エージェントに「Entra ID」を付与し従業員として扱うアーキテクチャ。未公開特許用と公開済特許用のエージェントを分離し、システムレベルでのチャイニーズウォールを構築する。

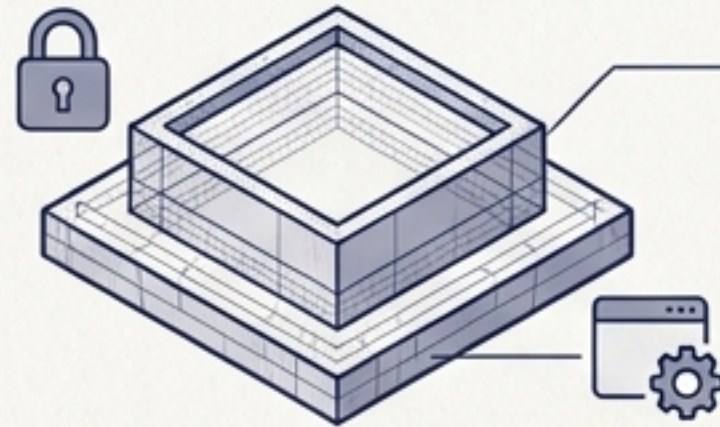
機密保護レイヤー：未公開知財をクラウドから隔離する「MXCサンドボックス」



Windows自体がAIエージェントの実行OS（コンテナ）へと進化。ネットワーク通信を完全に遮断した状態でのローカル推論により、クラウド学習への意図せぬデータ流出リスクを物理的に排除する。

実行環境マトリクス：ネットワーク状態とタスク特性に応じた最適解

オンデバイス分離 (MXC)



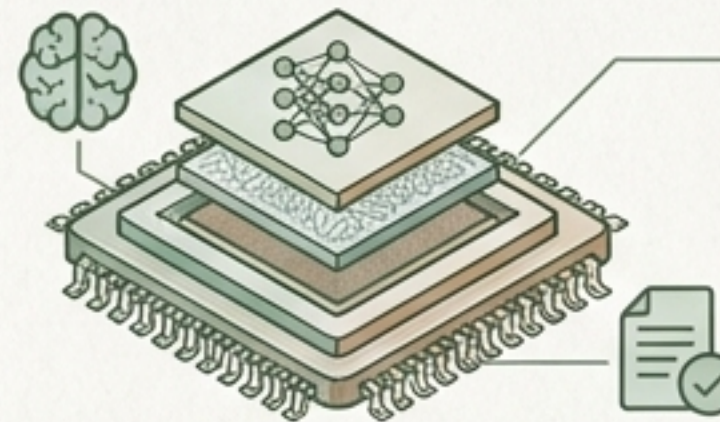
- ネットワーク遮断。
未公開ソースコードと特許クレームのローカル比較分析、安全なコード検証。

クラウド分離 (Windows 365 for Agents)



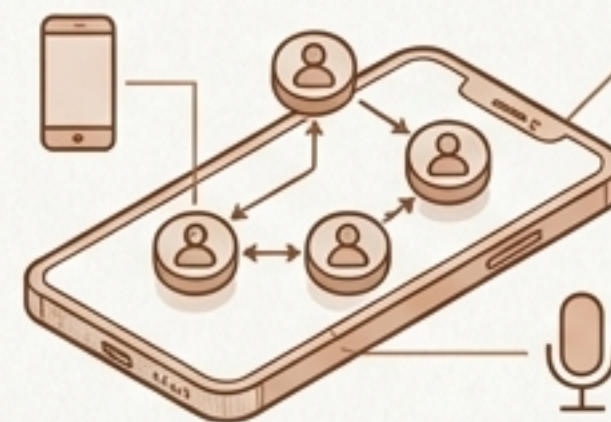
- 専用Cloud PC仮想環境。
API非対応の各国特許庁レガシーDBの自動巡回・UI操作。

オンデバイス推論 (Aion 1.0)



- 14Bパラメータ / 32Kコンテキスト。
機密文書のオフライン要約・ドラフト作成。

次世代OS (Project Solara)



- Androidベース基盤。
モバイル環境での安全なマルチエージェント連携（発明者インタビュー中のリアルタイム検索等）。

レガシーな特許庁データベース操作から、完全オフラインでの高度な推論まで、
知財タスクの性質に応じて実行インフラを使い分ける。

文脈統合レイヤー：Microsoft IQが構築する「動的IPランドスケープ」

動的IPランドスケープ・ダッシュボード

Web/Foundry IQ (外部ナレッジ・ライブWeb)

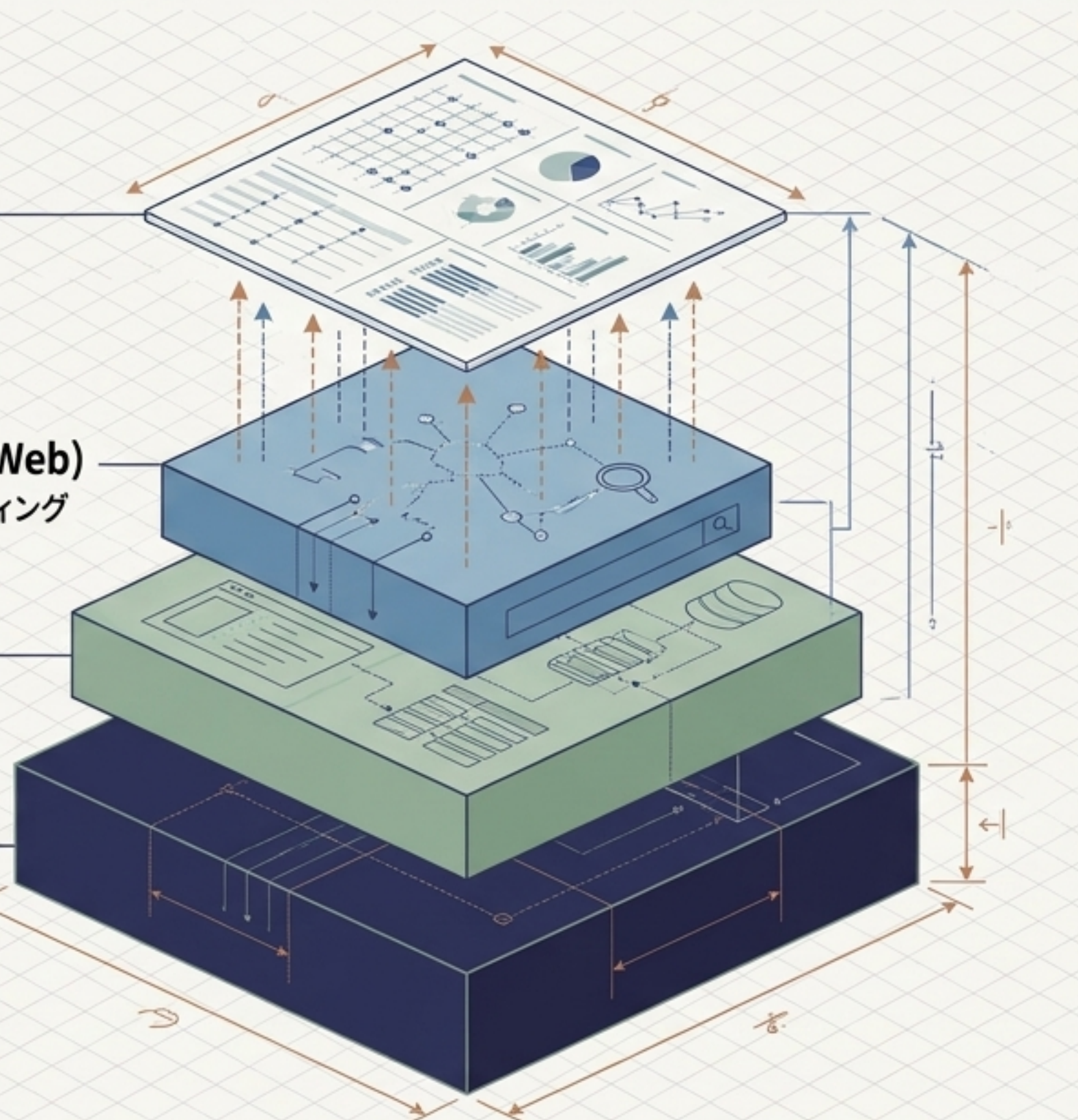
世界中の特許DB、学术论文のリアルタイムグラウンディング

Fabric IQ (構造化ビジネスデータ)

IPMS(自社特許DB)の書誌事項、収益データ構造化

Work IQ (社内コミュニケーション)

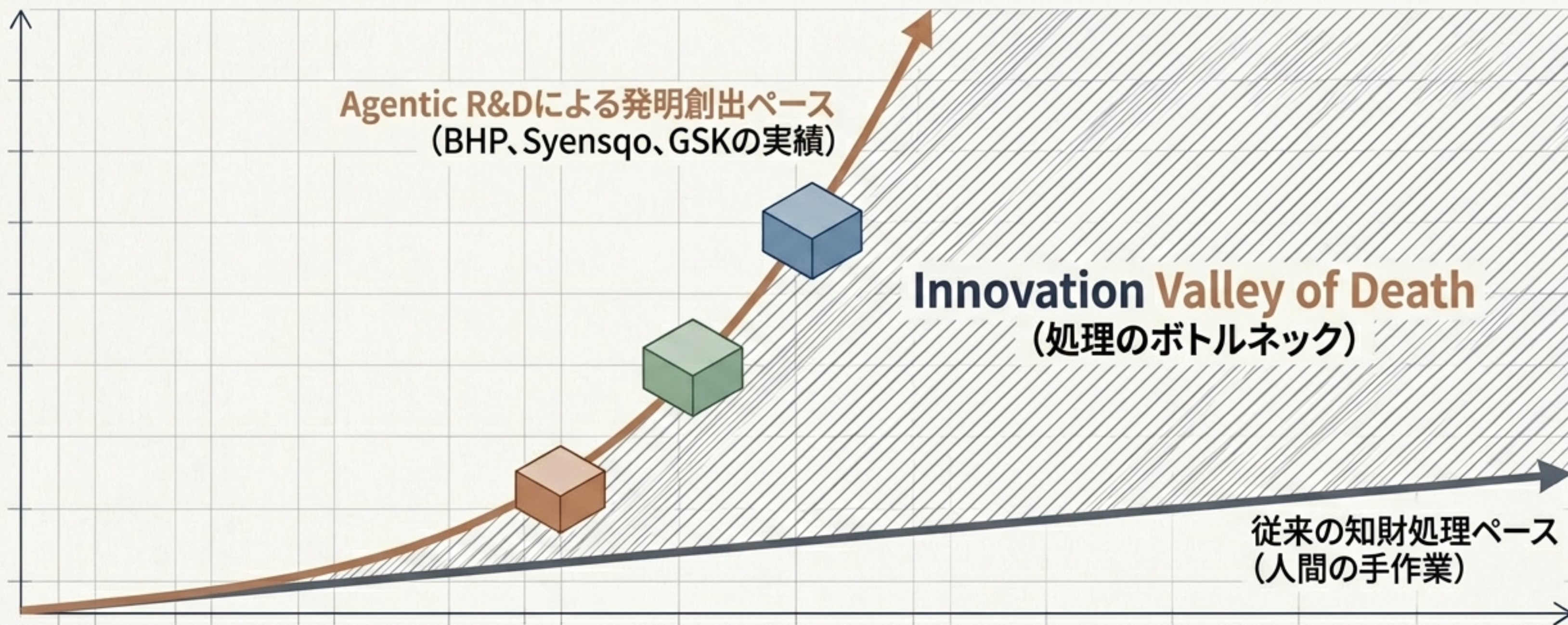
組織内の会議、メール、人脈からの発明の萌芽特定



エージェントは過去の開発履歴から競合動向まで、企業の「文脈」を深く理解する。

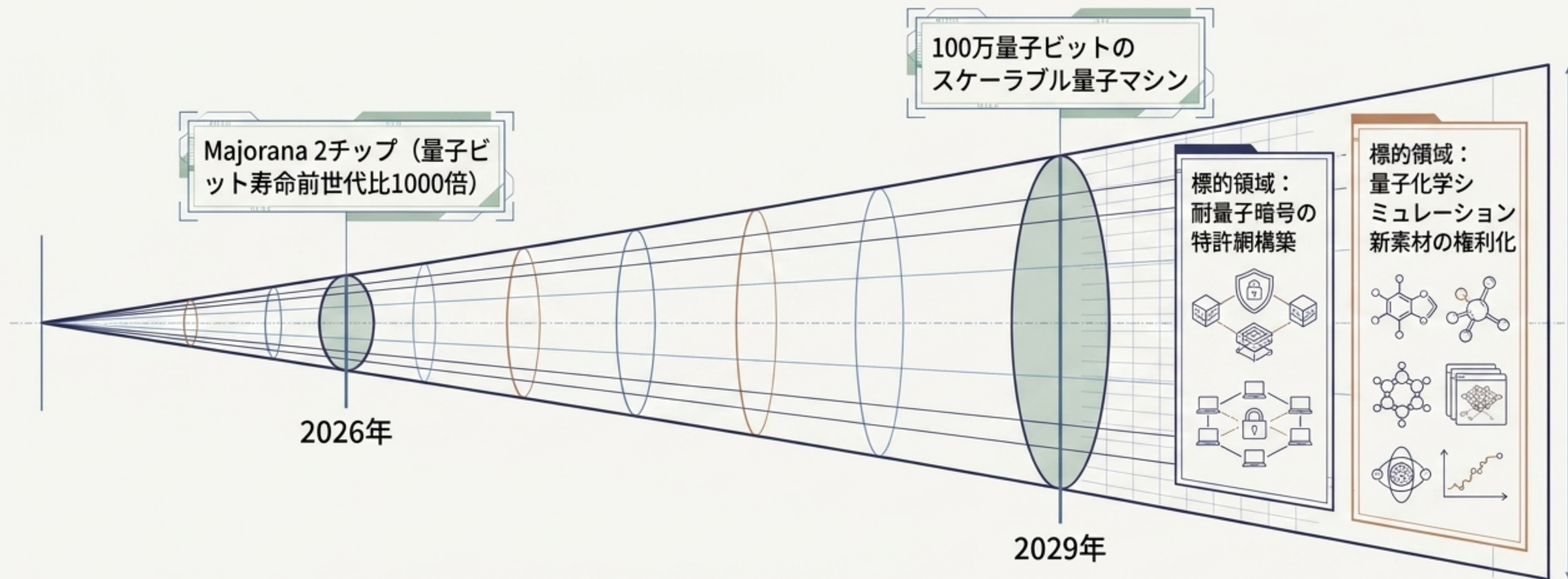
都度の調査指示は不要。AIが常時照合し、FTO (侵害予防調査)や知財リスクを継続的に更新し続ける。

R&Dのエージェント化がもたらす「発明の爆発」と知財のボトルネック



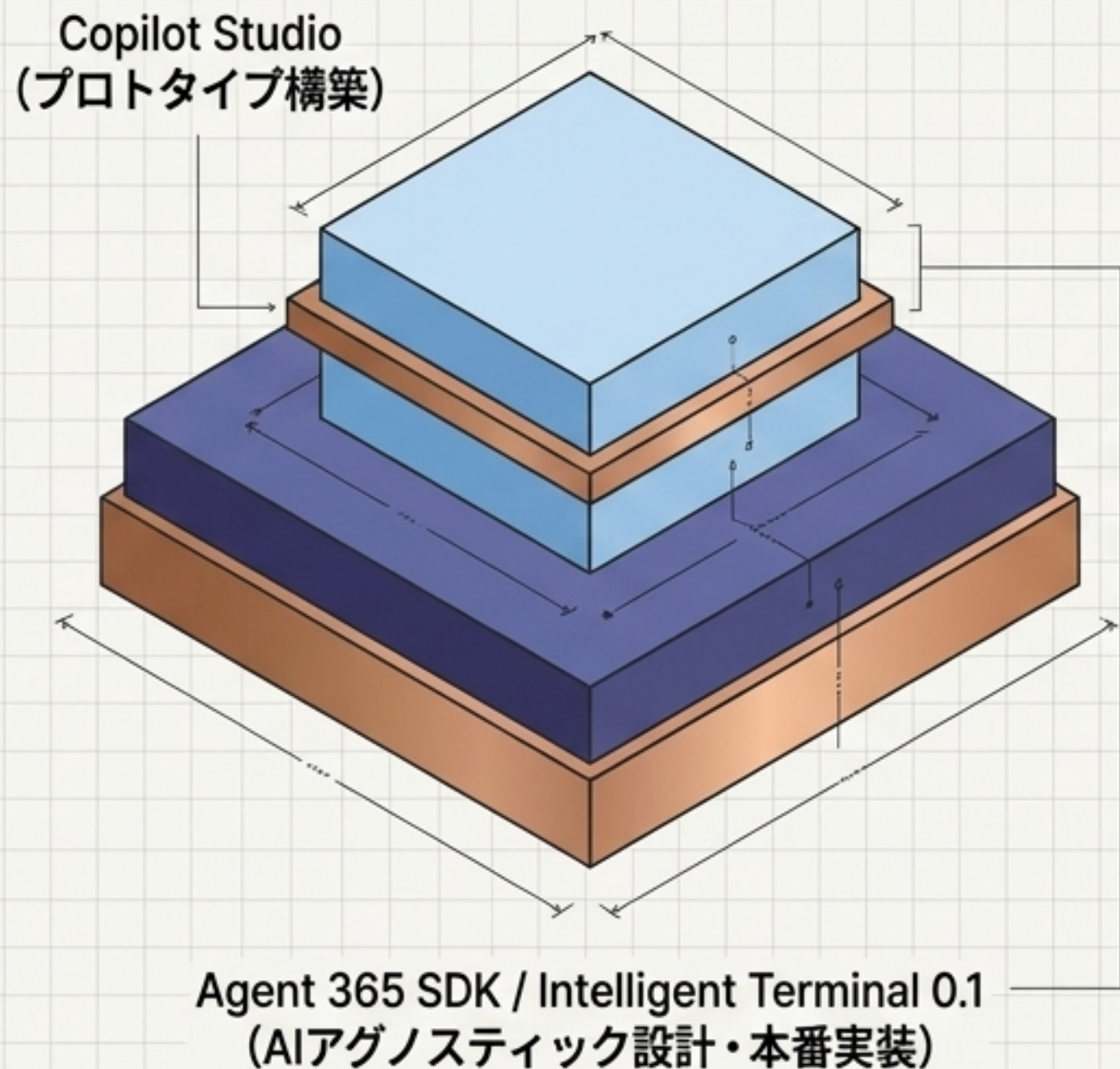
Microsoft Discoveryにより、数年かかっていた素材発見が数ヶ月に短縮。指数関数的に増加する発明のペースに対し、従来の「発明届出を待つ」リアクティブな実務では物理的に追従不可能となる。

2029年・スケーラブル量子時代を見据えた戦略的フォアキャスティング



- エージェントAIを活用し、現在の技術動向の監視から、未来のコア技術の拡張予測へシフトする。
- 量子環境下で自社技術がどう拡張されるかを予測し、先回りして上位概念化された特許網を構築することが急務。

開発とインフラ：知財特化型エージェントの自製とスケール



最大7倍

クエリ速度の向上
(Fabric Data Warehouse)

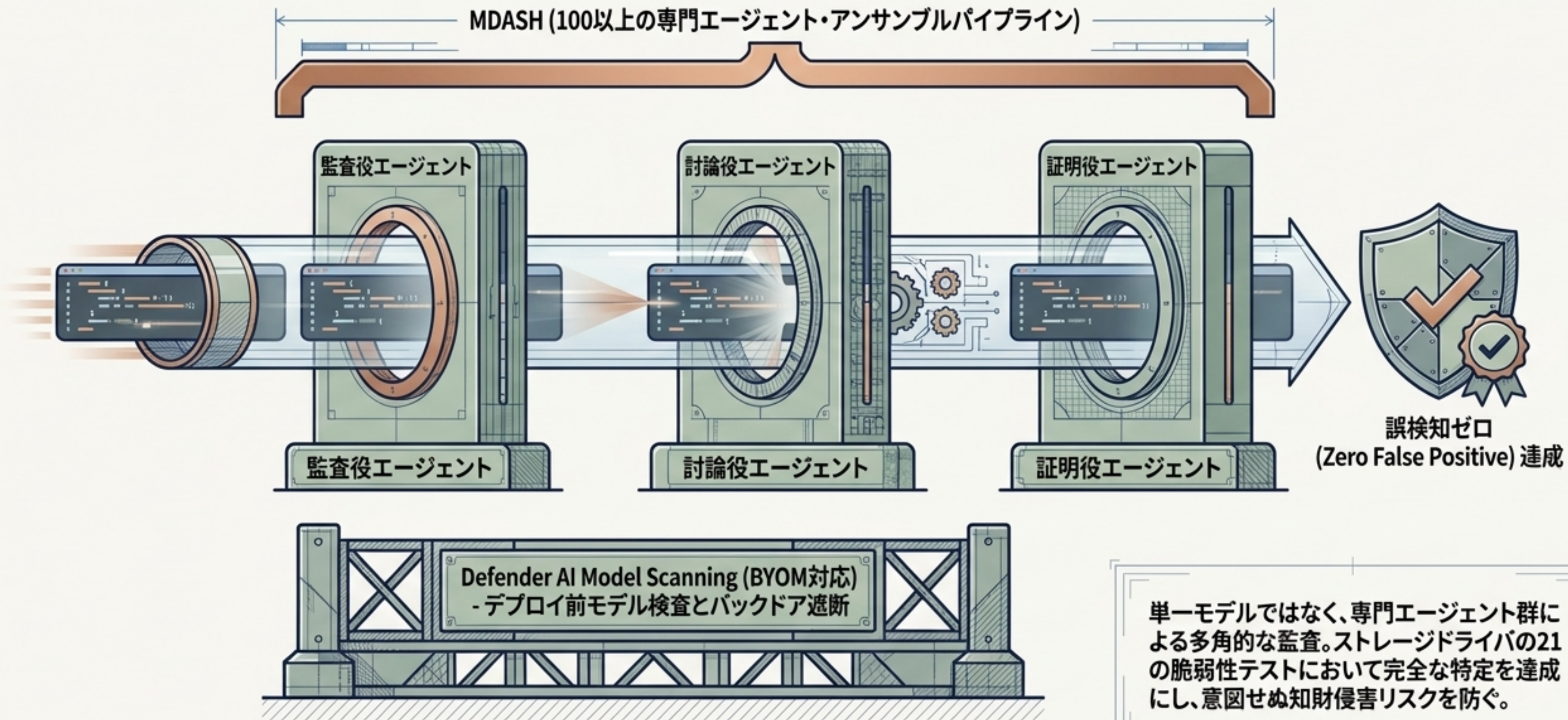
3倍以上

スループットの向上
(Azure HorizonDB)

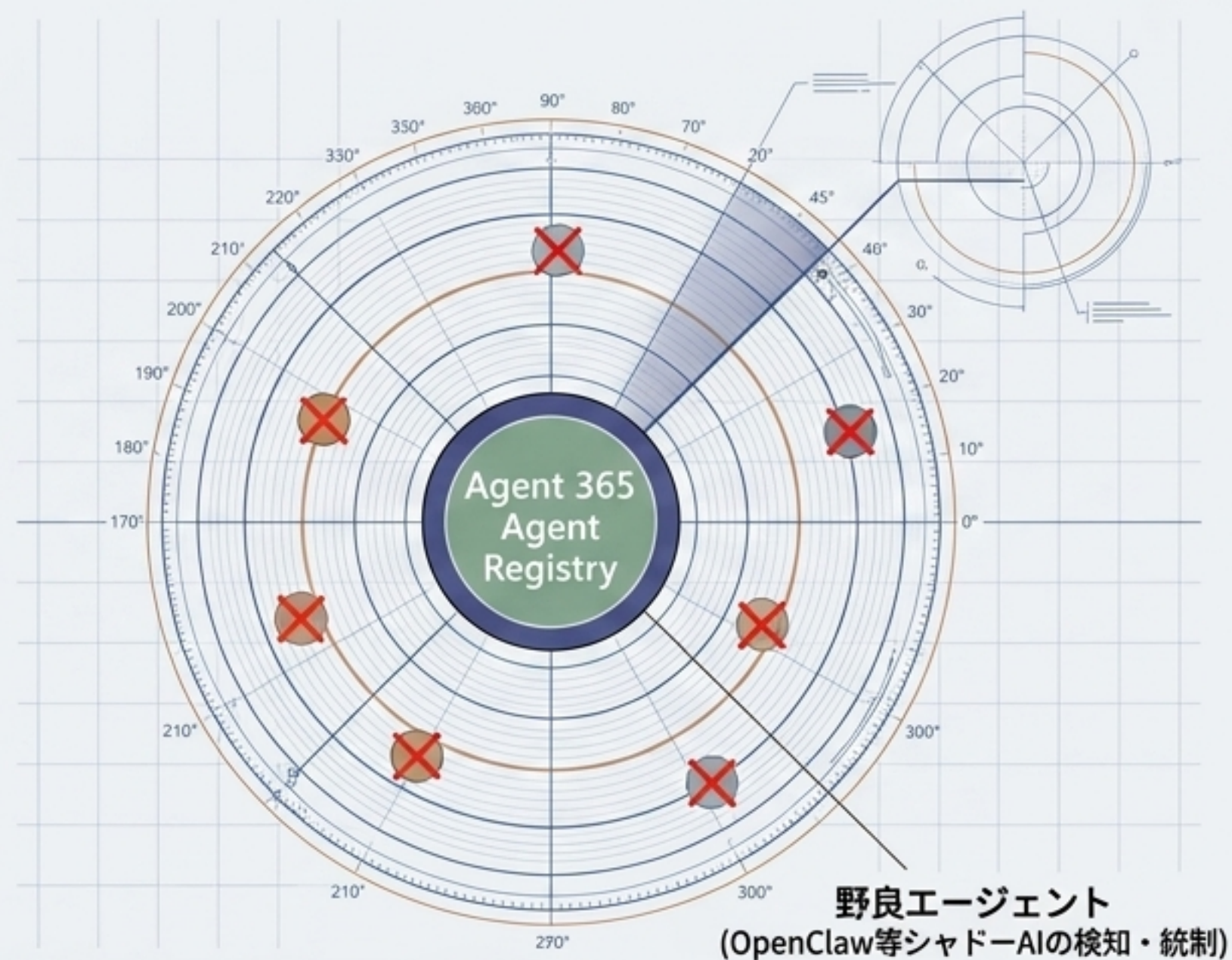
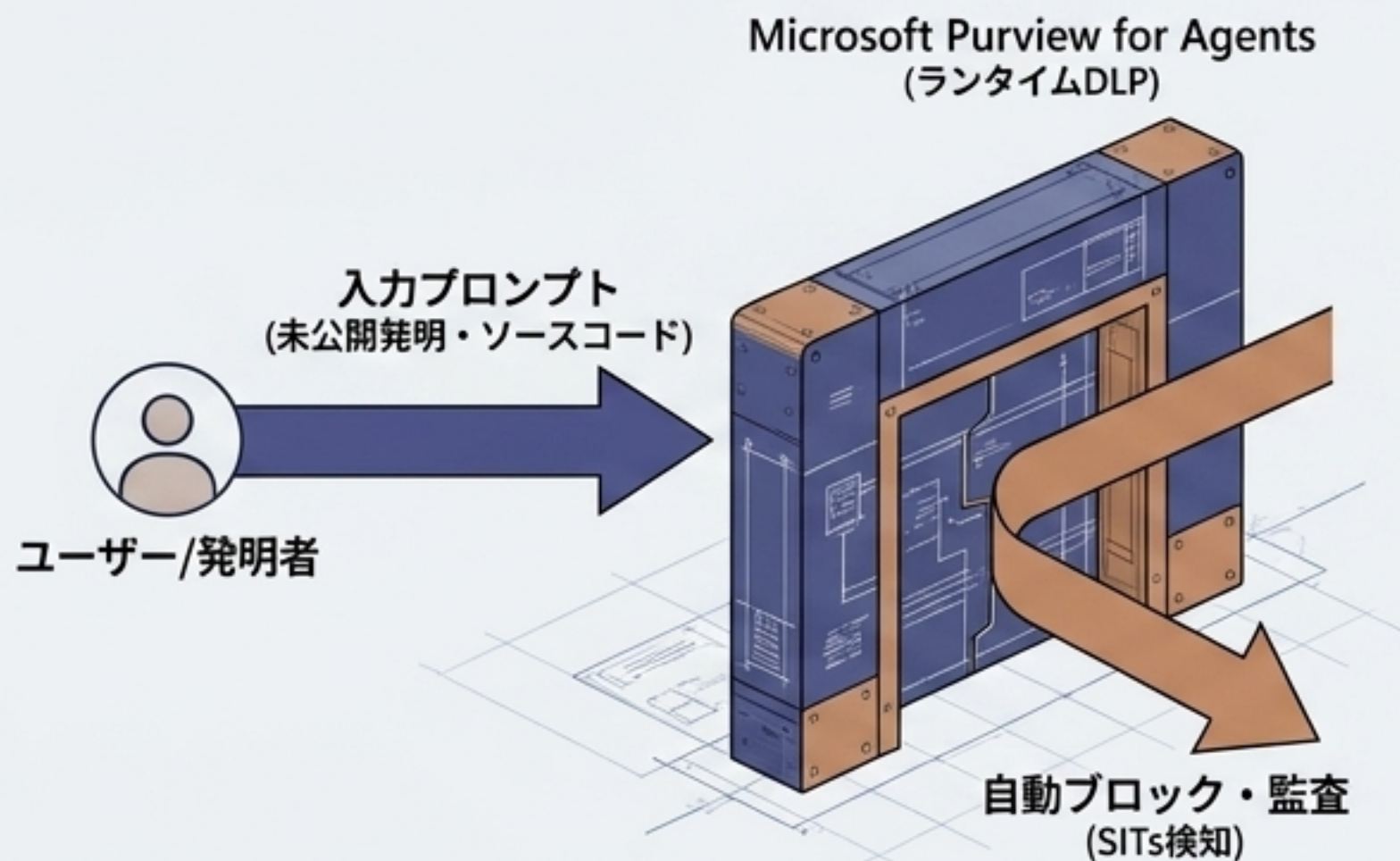
自社の独自評価基準に基づくエージェントを構築するAgent 365 SDK。

Rayfin SDKとAzure HorizonDBにより、数百万件の特許データ分析をリアルタイムで処理する本番環境への移行が極限まで容易に。

Agentic DevSecOps : コード生成における特許侵害と脆弱性の自律監査



情報漏洩防止とシャドーAIの徹底排除：PurviewとAgent Registry



- ランタイムDLPにより、エージェント実行フロー内でプロンプトやツール呼び出しをリアルタイムに検査・遮断。
- 無秩序に運用される未管理のローカルエージェント（シャドーAI）をIntune連携で可視化し、企業のガバナンス環境を維持。

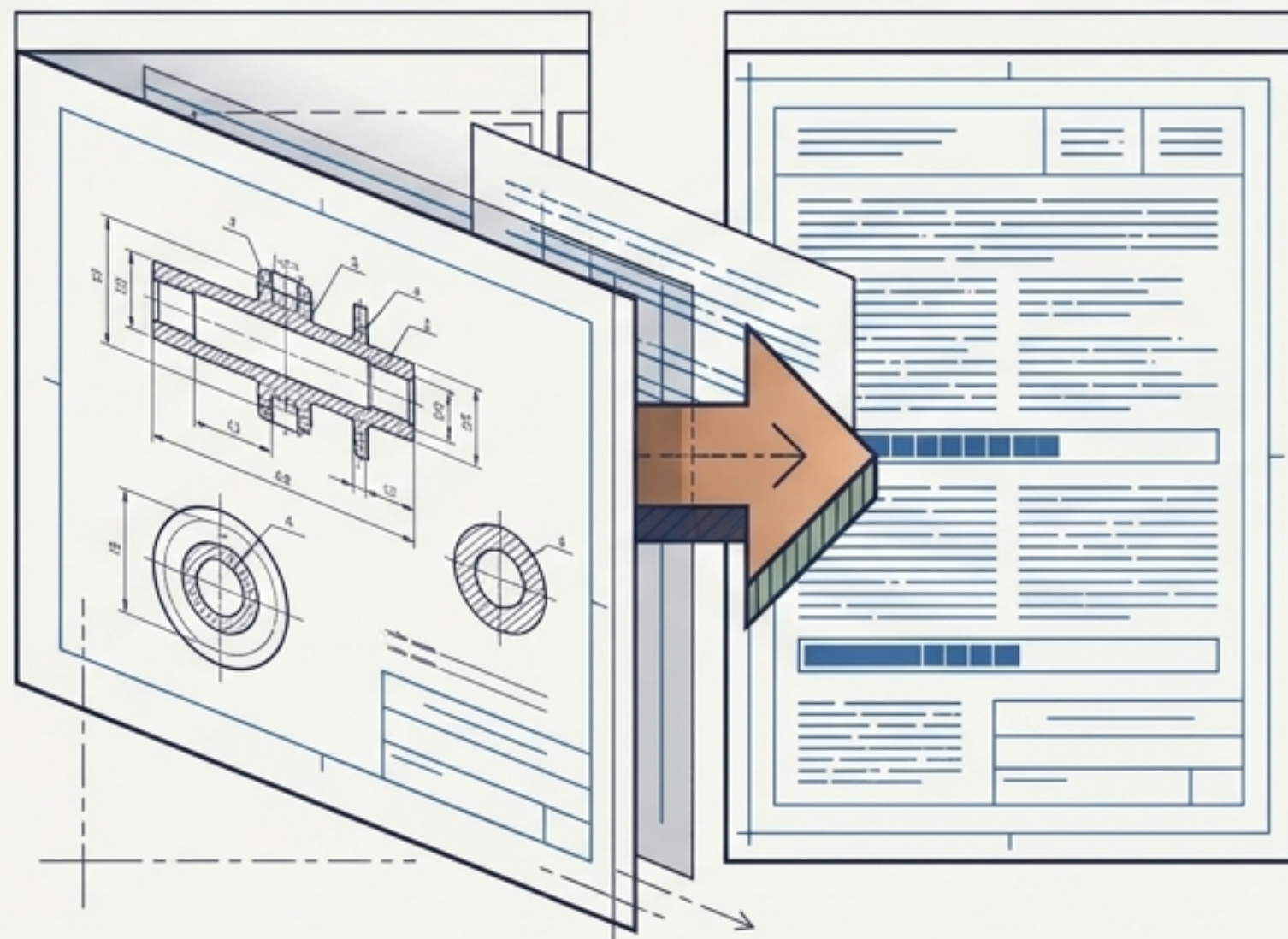
マルチモーダル革新：発明者ヒアリングの高度化と証拠保全

音声クローニング保護シールド
(ディープフェイク・なりすまし防止による法的証拠保全)

高速文字起こしモデル
(競合比5倍の速度)



MAI-Image-2.5
(特許図面・意匠デザインの自動生成)



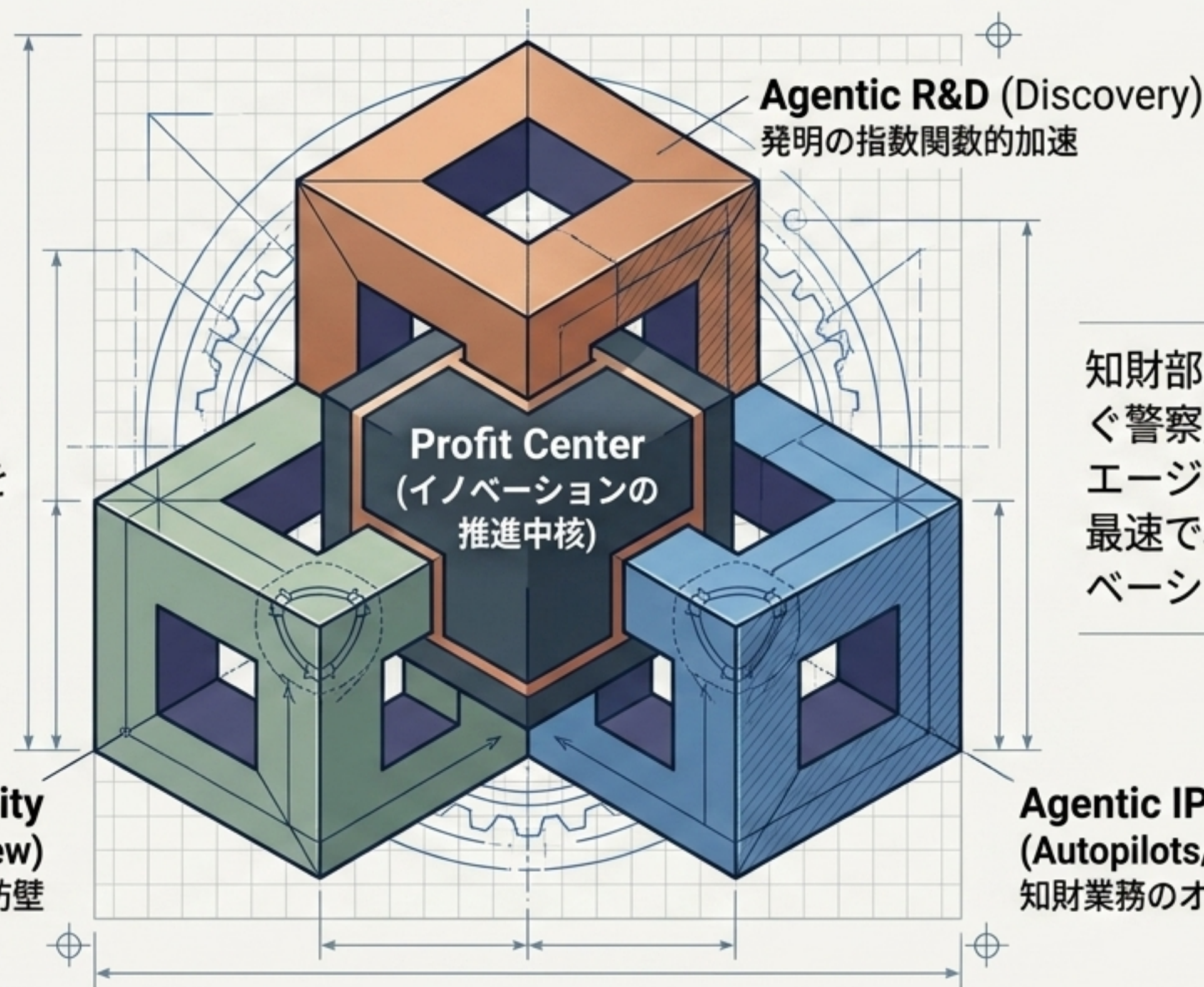
リアルタイムなクレーム・
明細書のドラフト作成

発明者の生の声をセキュアに記録し、証拠保全能力を向上させながら、高度な画像モデルと連携して特許明細書・図面のドラフトを即座に出力する。

三位一体の自律化：コストセンターから真のプロフィットセンターへ

Agentic R&Dのスピードと、
エンタープライズグレードの
堅牢なAgentic Security基盤を
融合させる。

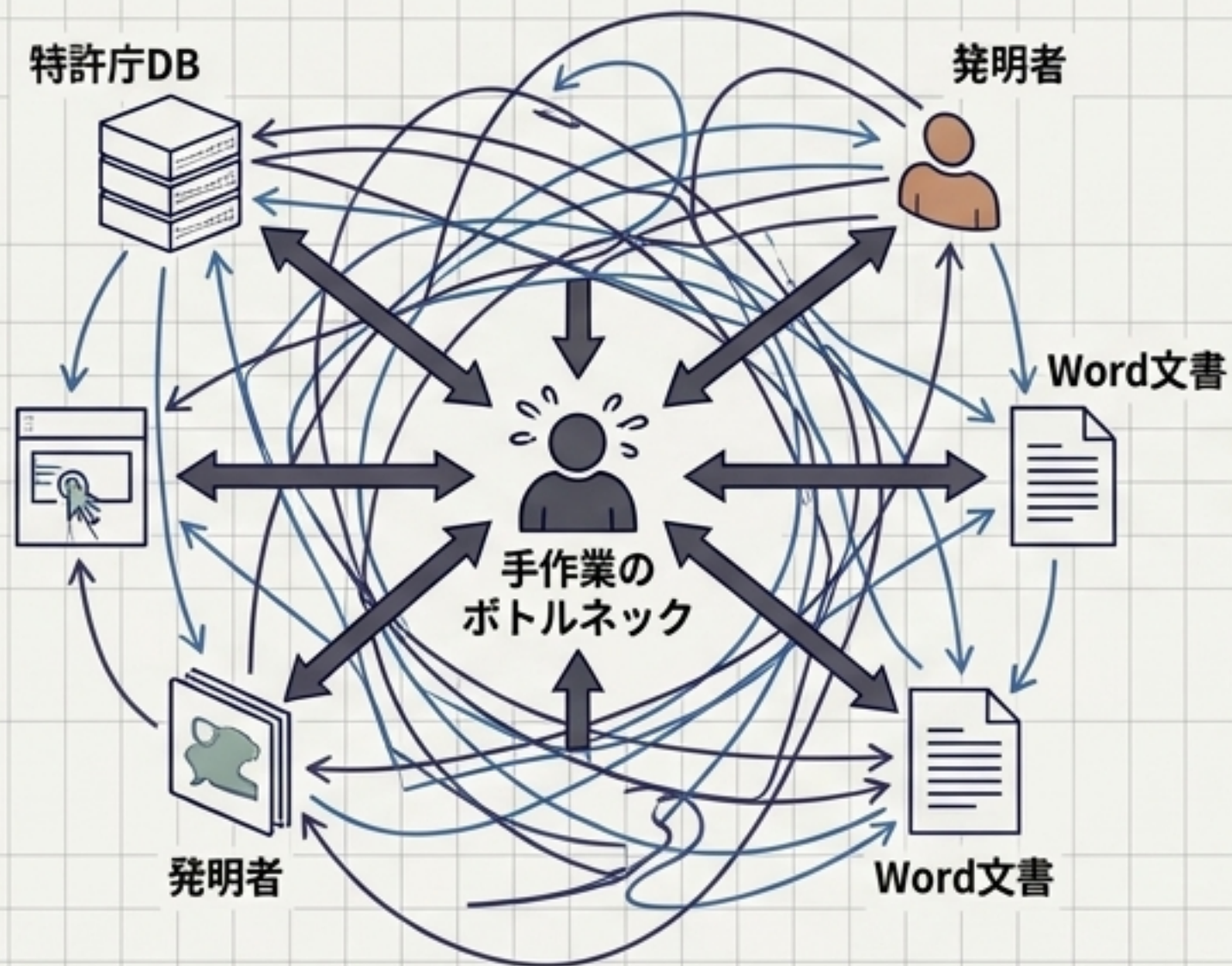
Agentic Security
(MDASH/Purview)
自動化された堅牢な防壁



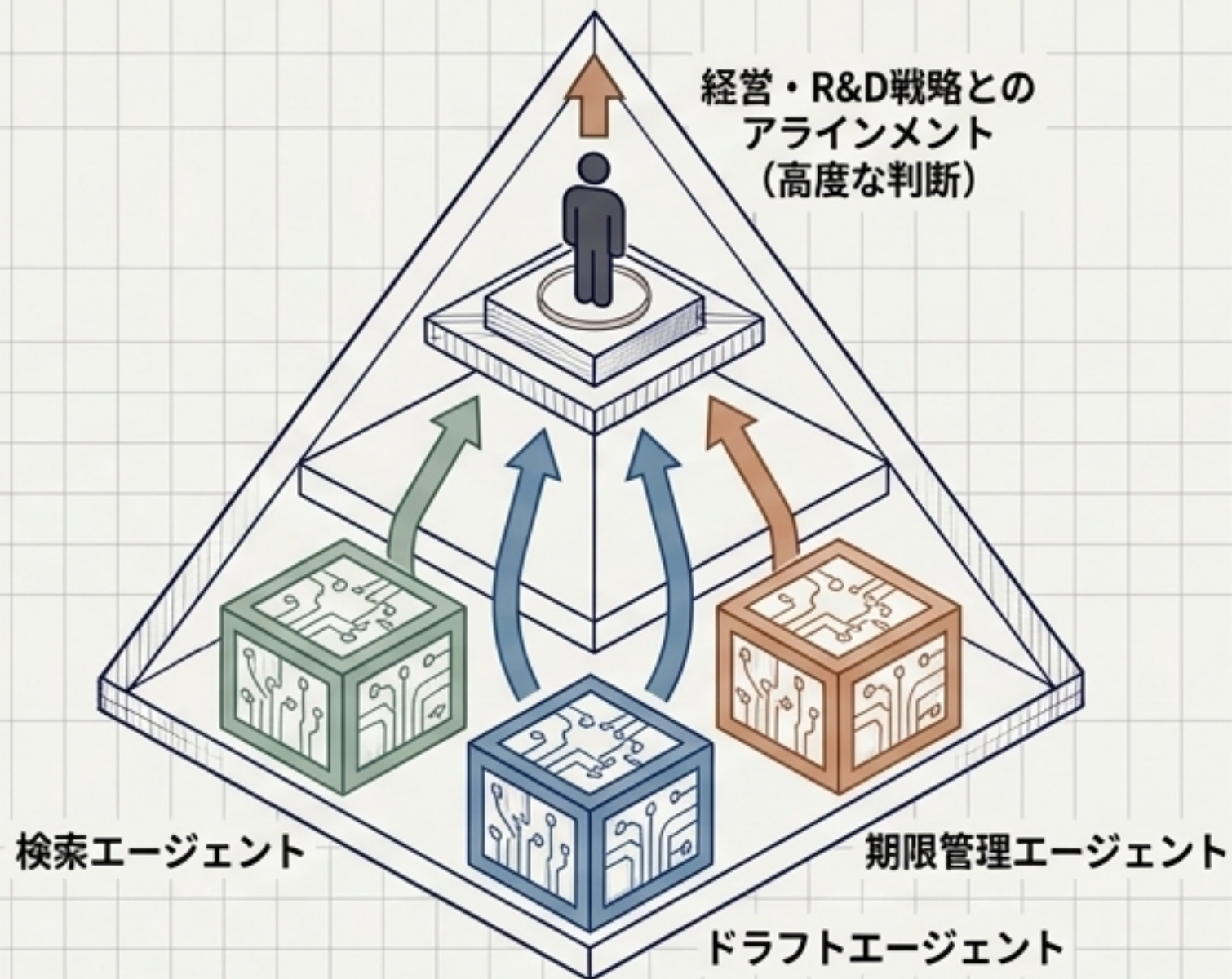
知財部門は「AIの暴走を防ぐ警察」にとどまらず、自らエージェント基盤を提供し、最速で権利化を果たすイノベーションの推進者となる。

知財専門家の未来：「作業員」からエコシステム全体を指揮する「オーケストレーター」へ

Before (作業員)



After (オーケストレーター)



- 個別の明細書執筆やデータ入力は、文脈を理解する安全なエージェント群へと完全に委譲される。
- 動的に提示される複雑なIPランドスケープを解釈し、経営戦略と結びつける高度な戦略的判断こそが、人間に残される最大の付加価値となる。